

## 教育委員会セッション

産業界における人材育成の現状と課題について  
Current Status and Issues for Human Resource Development in Industry

## (2) 原子力機構における人材育成の取組み

## (2) Human Resource Development in JAEA

\*宮村（中村） 浩子<sup>1</sup><sup>1</sup>JAEA

## 1. 原子力機構における人材育成概要

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構（以降、JAEA と略す）では、原子力分野における研究開発成果の最大化を達成するため、目指すべき人材像、育成の方針等を盛り込んだ人材ポリシーを策定するとともに、各研究開発部門においては、研究開発のプロフェッショナルな人材育成の他、核不拡散・核セキュリティ総合支援センターや原子力緊急時支援・研修センター等、各々の事業の専門分野に応じた職員の人材育成を推進している。

また、これら研究開発等の施設設備や人材を活用して、国内外の人材育成を推進するため、原子力人材育成センターは、日本における原子力利用の初期段階から、研修事業を開発するとともに、各研究開発部門や核不拡散・核セキュリティ総合支援センター、原子力緊急時支援・研修センター等、日本における時代のニーズに応じて、特定分野の人材育成を推進し、我が国における原子力利用の基礎基盤に貢献してきている。

## 2. 国内外における人材育成概要

JAEA では、教育機関や産業界からの要請に応えるため、昭和 32 年に旧日本原子力研究所ラジオアイソトープ研修所、昭和 34 年に原子炉研修所がそれぞれ設置され、これらを起源として昭和 50 年に原子力人材育成センターが設立された。以降、国内外の原子力に関する研究者及び技術者の養成訓練に係る取組みを、「国内研修」・「国際研修」・「大学との連携協力」・「原子力人材育成ネットワーク」活動として推進している。

国内研修では、社会人に対し、原子力利用の基礎的な内容から実践的な講座まで、また国家試験対策講座もニーズに応じて用意している。理論的なことを実験実習で体得することを組み込んだカリキュラムである。

また、国内の人材育成に限らず、アジアを中心とした原子力の国際交流開始に伴い、アジアにおける原子力利用を促進するため、国際講師の育成を目標とした国際研修を立ち上げた。アジアを中心とした 11 か国対象に原子力の専門家、講師を輩出し、各国の原子力利用の自立化を目指した貢献を果たしている。

大学との連携協力では、大学・大学院・高専等の学生向けに、大学連携ネットワークによる講義、JAEA の施設を用いた実験実習等、最先端教育・研究の機会を提供している。本活動は、人材センターで取りまとめ、各研究部門が教育指導を担うことで、最先端レベルの実験実習を提供している。

さらに、我が国の産官学が連携し設立した原子力人材育成ネットワークの共同事務局を、日本原子力産業協会、原子力国際協力センターと共に担当している。ここでは、個々の機関では対応できない人材育成課題に資するため、育成対象ごとに 5 つの分科会を設置し、活動している。現在、共通的な課題を設定し、日本における原子力分野の人材育成に係る戦略ロードマップの策定に向けて、鋭意検討や協議を進めている。

---

\*Hiroko Nakamura Miyamura<sup>1</sup>

<sup>1</sup>JAEA